日本行動計量学会会報 第57号 1992年10月15日

# 行動計量学会報

日本行動計量学会（理事長 水野欽司）
事務局：〒152 目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学工学部経営工学科研究室

## これからの時代と行動計量学

林知己夫

行動計量学は，既成学問体系へのアンティテーゼとして「計量と学際」を旗印にして形作られた．現在その内容は，行動計量学の方法そのものの研究，諸分野においてそれらの方法を活用して当該分野において新しい展開を行って行くという研究，前々者の成果を諸現実分野に応用して成果をあげて行くという活動，行動計量に関する諸方法のソフト化あるいはコンピュータとの関連に関する諸活動等に及んでいる．本日，私の述べることは私の専門上，一番始めにあげたことについてである．

行動計量の方法は，方法・理論と実際との一体化の上に発展するものである．出来上ったものを実際に応用するという考え方のものではない．実際の問題を取扱いながら，方法・理論を考え・作り，方法・理論を考え・作りながら，実際の問題を取扱うというのがその中心であると考えている．方法・理論を作る側から言うならば，応用がゆきわたったような時点においては，さらに一歩進んだものが出来上がっていなければならない．

さて，今日の状況においては，私どもの立場のものは，コンピュータを駆使し，データを試行錯誤的に多面的に分析しつつ，沈思黙考の時間をとって，じっくり方法・理論を按じなくてはならない．しかし，現実をみると，コンピュータ的発想に左右され，自動化・ソフト化に関心が向き，且つデータ解析と言えば，既存のコンピュータ的発想に禍されて，革新的な発想がとざされているように思われる．コンピュータの発達・普及後，局面を転回させるような飛躍的な方法・理論が世界にどのくらい出たであろうか．この点を深く考えてみる必要がある．

これから，行動計量に対する社会的要請はますます強くなるし，複雑且つ困難な問題解決がつきつけられてくる．この要請について行けなくなったとき，その学問は衰退する．我々は，データによる現象解析を志向し，いかなるところに目を付け，いかにデータをとり，いかに解析し，目的を達成するか，の原点から考えなおすことである．今日致り得た諸成果をポテンシァルとして現象に立ち向かうことである．こうした態度のバックボーンは，その根本的思想—'logic, methodology and philosophy' of science の確立に根ざす— にある．こうした思想は，抽象的思辯で生れるものではなく，データを取扱い，方法・理論を作ろうとする過程のまにまに，意識的に構成されるものである．こうした，基礎と現実が一体となって進むところに明るい未来がある．

(はやし ちきお，日本行動計量学会理事)

## 功績賞を受賞して　池田央

今年は日本行動計量学会創立20周年の喜ぶべき記念の年であります．そのようなとき，思いがけずも私のようなものが功績賞を頂く栄誉に浴し，この上なく光栄に存じております．

月日が経つのは早いもので，学会が生まれたのはついこの間のような気がしています．もうすでに20年が経過して，その間に一体どれだけのことが出来ただろうかと考えると，その少なさに自責の念に駆られるのを禁じ得ません．ただいたずらに年齢だけを重ねていったようでお恥ずかしい限りです．

しかしこの20年間に世の中は確実に変わっていったように思います．はっきりいえることはコンピュータの発達によって，かっては思いもよらなかったことが，地味ではあるが着実に地歩を固めていっているように思われることです．私が今いちばん関心を抱いていることは身近になったコンピュータの能力を教育の現場に活用するようにすることです．私の関係するテスト理論も新しい時代を迎えて，今後いままでとは違った方向に展開していく動きが感ぜられます．

いままでも少しずつ準備はしてきたのですが，このところ急に実際の現場に立つようになって，これまで視野に入っていなかった新しい課題が次々と現れ興味は尽きません．新しい問題を開拓するには時間が足りず，まだまだ年はとりたくないものです．功績賞を励みに次のステップに踏み出したいと願っています．

(いけだ ひろし，日本行動計量学会理事 立教大学社会学部)

## 優秀賞を受賞して　吉野諒三

この度は，日本行動計量学会二十周年という記念すべき時に優秀賞を頂き，誠に恐縮し，皆様に対する感謝の気持ちでいっぱいです．これまで，いろいろな状況の中で御支援して下さった諸先輩，諸先生の御蔭と承知しております．有り難うございました．

二十年前は，まだ私は純粋数学に熱中する高校生でしたが，その後若輩の私にも紆余曲折があり，数理心理学を専門とするようになりました．この分野を応用数学の一分野と考えている方も多いようですが，私は数理心理学とは心理学，或いはすこし広く考えて人文社会科学の対象とする現象を解明するために，それにふさわしい表現法を作り出すことと考えております．Newtonが微積分法を開発したのは純粋数学そのものの為ではなく，彼の開発しようとしていた力学を的確に表現し展開する必要の為であります．同様に人文社会科学でも，既成の数学からの借り物ではなく，問題とする対象の的確な表現法，或いはパラダイムを開発すべきでしょう．その開発の背景には，対象の観測・実験データに関する深い洞察が前提となります．この点が，統計的パラメターらの当てはめ手法や，シュミレーション・モデルの構成とは異なり，先に応用数学ではないと述べた理由です．

今後も私なりに数理心理学の立場から，行動計量学を実証データを尊重した確固たる学問として発展させる一助として尽力したいと考えております．宜しくお願い申し上げます．

(よしの りょうぞう，統計数理研究所)

## 会議記録

### 平成 4 年度第 1 回理事会

日時：平成 4 年 4 月 11 日 (土) 午後 0 時～3 時
場所：大学入試センター
出席者：水野理事長他 10 名

1. 前回議事録の承認
2. 会員の移動について
3. 今後の活動方針について：会員，賛助会員を増やすための努力をすることがあらためて確認された．
4. 各種委員会報告
   運営委員会の活動資金として寄付があったことが報告された．使途については，運営委員会に一任することが了承された．
   講習会の復活を検討しているとの報告があった．
   外国からの投稿者からの投稿料については，次回の編集幹事会で検討して報告することとした．
5. 行動計量学会第 20 回大会，特に 20 回記念講演について
6. その他

### 平成 4 年度第 2 回理事会

日時：平成 4 年 7 月 6 日 (月) 午後 6 時～8 時 30 分
場所：大学入試センター
出席者：水野理事長他 9 名

1. 前回議事録の承認
2. 会員の移動について
3. 学会賞について：宮原理事より，平成 4 年度受賞の候補者について報告があり，承認された．
4. 行動計量学会第 20 回大会および 20 周年記念行事について
5. 今後の学会誌編集方針：和文誌「行動計量学」の投稿規定，現行論文審査表の改定について
6. 各種委員会報告
7. その他：学術情報センターと行動計量学会の間で学会発表データベースの作成に関する覚書を交換することについて報告があり，承認された．

### 平成 4 年度第 3 回理事会

日時：平成 4 年 8 月 31 日 (月) 午後 6 時～8 時
場所：大学入試センター
出席者：水野理事長他 8 名

1. 前回議事録の承認
2. 20 周年記念事業について：記念事業に資するため，多変量解析に関する講習会を計画していることが，岩坪理事より報告された．
3. 行動計量学会第 20 回大会について
4. 平成 3 年度決算および平成 4 年度予算：平成 3 年度の決算について宮原 (守)，開原両監事の承認を得たことが事務局から報告された．
5. 各種委員会報告
6. その他

## 協賛するシンポジウム等のお知らせ

1. 第 9 回ファジィシステムシンポジウム
主催：日本ファジィ学会
日時：1993 年 5 月 19 日 (水),20 日 (木),21 日 (金)
会場：北海道大学学術交流会館，北海道大学百年記念会館

一般講演・デモンストレーション申込締切：1993 年 1 月 15 日 (金) 必着．詳しくは下記の事務局まで

申込先：〒 231 横浜市中区山下町 89 - 1 シイベルヘグナービル 3F 日本ファジィ学会事務局 (荒木節子)

2. 講習会「ビジネスにおけるファジィ戦略—評価支援に向けて—」

主催：日本ファジィ学会

企画：ノンエンジニアリングファジィ研究会

日時：平成 4 年 11 月 30 日 (月)9:20 ～ 17:00

会場：明治大学百周年記念館父兄センター会議室 (JR お茶の水駅下車徒歩 3 分)

参加費 (テキスト代を含む)：主催・協賛学協会会員 15000 円

申込方法：官製はがきに「第 1 回ビジネス分野ファジィ講習会申込」と題記し，(1) 氏名 (ふりがな) (2) 勤務先・所属部課名・所在地 (3) 連絡先住所・電話番号・ファックス番号 (4) 会員資格 を明記の上，下記宛までお申込下さい．

申込先：〒 231 横浜市中区山下町 89 - 1 シーベルヘグナービル 3 階日本ファジィ学会事務局 (担当 荒木) (電話:045-212-8253，ファックス:045-212-8256)

問い合せ先：〒 305 つくば市東 1 - 1 - 4 製品科学研究所ノンエンジニアリングファジィ研究会幹事 中村和男 (TEL：0298 - 54 - 6760, FAX：0298 - 54 - 6608)

## 関連学会等のお知らせ

1. 第 32 回日本ＭＥ学会大会

会期：平成 5 年 5 月 19 日 (水),20 日 (木),21 日 (金)

会場：山梨県民文化ホール，シティプラザ紫玉苑

大会長：田村康二 (山梨医科大学医学部)

連絡先：〒 409 - 38 山梨県中巨摩郡玉穂町下河東 1110 山梨医科大学第二内科第 32 回日本ＭＥ学会大会事務局 TEL：0552 - 73 - 1111 (内線 2310) FAX：0552 - 73 - 6749

2. SECOND IEEE INTERNATIONAL CONFERENCE ON FUZZY SYSTEMS (FUZZ - IEEE '93)

主催：IEEEE Neural Netwoks Council

協賛：日本ファジィ学会，他

日時：1993 年 3 月 28 日 ～ 4 月 1 日

会場：HYATT REGENCY, SAN FRANCISCO, CALIFORNIA, USA

問い合せ先：FUZZ - IEEE Meeting Management, 5665 Oberlin Drive, Suite 110, San Diego, California 92121, USA

## 会員による著書

1991/1 村上宣寛・村上千恵子：ロールシャッハ・テスト — 自動診断システムへの招待 (ソフト含む)，日本文化科学社．

1992/3 村上宣寛・村上千恵子：コンピュータ心理診断法 — ＭＩＮＩ，ＭＭＰＩ－１ 自動診断システムへの招待 (ソフト 2 種含む)，学芸図書．

## 会報担当者より

会員の声，会員による著書，会報への御意見等は，下記宛てにお願いいたします．

114 北区西ケ原 4-51-21
東京外国語大学外国語学部
市川雅教